

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201686		
法人名	有限会社ライフレビュー		
事業所名	まつもとデイ・グループホーム長沼 ユニット①		
所在地	静岡県静岡市葵区長沼2-11-20		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2274201686-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2274201686-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日午前中に行っていたラジオ体操を「もっと体を動かしたい」との事で、午後も行おう事になりました。体操も同じものではなく、でんでん体操、口腔体操とオリジナルで作成した体操等を行っています。体調の良い日は、少し遠出をしてドライブを楽しんでいます。まつもと農園では、じゃがいも、しその葉、土いじりから収穫、料理までと行っております。恒例のまつもと喫茶では、本格的コーヒーを喫茶店の雰囲気を楽しんでいます。□  
□  
□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

掲載された写真で活動の様子や表情が鮮明な「まつもとグループホーム新聞」と、健康面や食事面を手紙に添えて毎月家族に届け、さらに昨年度からは9割以上の家族とSNSでつながり、タイムリーな情報発信に事業所での生活が手に取るようにわかると喜ばれています。「その人らしさ」を起点にしたケアが暮らしの安寧となって日々を支える中、コロナ禍で滞っていた地域交流が再開し、長沼公園祭りの賑わいで活力を高め、制限が緩和された面会には「家族と少しでも外の空気が吸えて嬉しい」といった声も聞かれ、閉塞感に包まれた三年間を振り切るようにウィズコロナを歩み出しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本などの活用で昔使っていたなじみ深い風景や家庭用品等の物を見たり、昔の懐かしい音楽を聞いたりしながら、利用者様と語り合う時間を使っている。	理念は入職時に法人代表から説明があり、玄関及び各ユニットに掲示して意識づけています。介護計画更新時には職員間で「自分らしく、その人らしさを大切にした生活がサポートされているか」を視点に話し合いがなされ、理念の実践を振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内祭りの参加。近くの公園などの草むしり等を行っている。コロナの関係で学校からの行事は中止となっている。	3年ぶりの長沼公園祭りでは町内会から無料の金券も配布され、4名の利用者が参加しています。科学技術高校より50名あまりのボランティアが参加して盛況を博す中、かき氷を手にとり地域のにぎわいや人とふれあう楽しさを満喫し、明日への活力となっています。	
		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの関係でおこなっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を行い、サービスの実際を報告している。また、意見を聞き、サービス向上に努めている。グループホームのネットワークの参加。	今年度より通常開催とし、町内会長、地域包括支援センター職員、家族の出席があります。レクリエーションに取組む写真を提示して活動の状況を詳しく伝え、「評価・感想」「要望・意見・助言」欄で忌憚ない意見交換がなされている議事録を視認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携を密にとり、現状の報告や、運営の助言を受けている。	認知症のある人やその家族、介護に関して相談したい人を対象に、地域包括支援センターが開催する「家族介護者の集い」に参加し、施設紹介ではグループホームの説明をおこなっています。福祉用具業者による最新の車いすやベッドの紹介も参考になり役立っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、昼夜問わずオートロックとなっているが、各階の入り口は施錠せず入居者様の行動制限をすることは一切行わないように努めている。研修記録を書面で残している。	指針に基づいた身体拘束廃止委員会と研修を滞りなく開催しています。病院ではミトン着用や精神安定剤投与を余儀なくされていた人も、入居後は主治医、家族と相談の上、最低限の薬の内服のみとしながら日中の活動量を増やし、安眠できる生活リズムが奏功した例もあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での高齢者虐待防止研修を行っているほか、カンファレンスでの話し合いを行い、虐待を見過ごさないようにしている。入浴時に全身状態の観察も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、個々での必要性を話し合い活用する場合は支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、自宅に訪問するか、施設に来訪していただきご本人ご家族と面談したうえで十分な説明を行い、理解納得していただけるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員、経営者が直接話を聞いている。申し送りなどで情報を共有している。また、個別報告を記入し、毎月、ご家族にわかるようにしている。	運営推進会議の案内通知は全家族に送付し、都合がつく家族の出席を得ています。コロナ禍での入居では家族が関われる時間が限られ、生活環境がわかりにくいとの意見から、居室や食事の実際を垣間見る日を設けたところ、「安心できました」と納得の声がもらえています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行う申し送りなど様々な問題について話し合っている。また、個別での意見交換も行っている。	職員会議は実施していませんが、9割を超える職員が5年以上継続勤務し、業務の流れを把握した朝夕の申し送りと、職員ノートによる情報共有や案件の提示が可能となっています。居室内の配置から業務フロー、安全な移動など利用者目線での意見が協議されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1度、職員の努力や実績に応じた給与水準の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での定期的な研修を行う予定でいる。コロナの関係で未定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係でおこなっていない。グループホームネットワークづくりはリモートでの参加をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話聞く場を多く持ち、不安や希望を傾聴し受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コミュニケーションが取れる機会を多く持ち、不安や希望を傾聴し受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話傾聴し、何が必要かを考え、こちらの提供が困難な場合は、対策を考え助言するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とともに会話を楽しんだり、一つの作業を一緒に行ったりと、互いの感情が表出出来るような雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と会話をする時間を大切にし家族の思いを受け止め協力し合って本人を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙、電話などで関係が途切れないようにしている。また、面会の緩和により、馴染みの方に会う事も出来ている。家人との馴染みの場所へも出掛けたりしている。	面会は5月より制限を緩和し、1階応接室で時間は15分(屋外は30分)、人数は2名と定めての受け入れとしていますが、「家族と少しでも外の空気が吸えて嬉しい」と喜びも倍増しています。感染防止対策を慎重に講じつつ、披露宴への出席やお墓参りにも出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室や食席に配慮して、入居者様同士の関わり合いを大切にしている。また、共通の趣味など楽しい時間を過ごしてもらうほか一人ひとり役割を持っていただくことで入居者様同士の関係づくりに役立てる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても気軽に立ち寄っていただいたり相談等あった場合には、できる限り受付できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や趣味等を把握し入居者様とのコミュニケーション、日常生活の中で言動などから入居者様の意向を把握するようにしている。困難な場合は本人本位に穏やかに生活できるようにしている。	隣に座ってゆっくり話を聴く時間を確保し、若い頃の仕事や得意だったことを知る機会にもなっています。帰宅願望が聞かれる時には本人の訴えに耳を傾けて思いを受け止めつつ、「明日迎えに来てくれるので今晩は泊まって～」と、本人が納得できる言葉で穏やかに語りかけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族関係を把握し、入居後も以前と変わらない生活が続けられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画の経過記録及び評価時のカンファレンスや毎日の申し送りで職員全体が入居者様一人一人の情報を共有して現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日行う申し送りで、気が付いた点などを話し合う他、言っていた言葉や心配事など、職員間で話し合い、計画書へ反映させている。変化があれば家族に報告し、全スタッフ間で情報を共有し計画に反映している。申し送りノートを作成し全職員が目を通し計画に携わっている。	身体面と精神面のニーズを捉え、これまでのライフスタイルを考慮してその人がどのような生活を望んでいるか、利用者の視点に立った介護計画とし、日々の様子が記録された施設介護経過と、申し送りや職員ノートから職員意見を集約し、介護支援専門員が書面作成しています。	精神的支援の経過がわかる記録が充実することを期待いたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは、個別の看、介護記録に記入して情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況を一つのサービスに限定せず、その時々合ったサービスを多方面から考え柔軟な支援サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの関係でおこなっていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の施設内での往診のほかご本人ご家族の希望されている入居前のかかりつけ医の受診がスムーズにできるように支援している。	現在は18名全員が協力医に変更し、月2回の訪問診療には事前にクリニック報告用紙に職員の気づきや利用者の変化をファクスし、処置や対応方法の指示が仰げるようにしています。当日は各ユニット職員が立ち会い、結果を個別記録用紙に記録しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中で気が付いた点や状態などを看護職員に伝え入居様が早急に適切な受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様、ご家族の要望を聞きながら医療機関と密に連絡を取り早期退院し元の生活に戻れるように情報交換相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から入居者様ご家族と話し合い意向の確認をしている。ご本人の状態を見ながらその都度話し合いの場を設けている。必要に応じ、往診の立ち合いや主治医からの病状の説明も行っている。	医療行為もなく、「ここで最期を迎えたい」という家族の要望から看取りに取組むケースもあります。今年度、最も長く入居していた利用者を見送り、家族から「苦しむこともなく、また寂しいこともなく旅立てた」と感謝の言葉をもらえ、職員も感慨深く、達成感に満ちています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや行うべきことを明確にし目の届く場所に掲示していつでも確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での災害対策は避難場所・避難経路ともに全職員が身に着けるよう定期的に確認を行っている。定期的な避難訓練を行っている。	夜間想定も含め、地震～火災発生として通報、消火、避難誘導訓練を実施しています。職員の入れ替わりもないためスムーズな対応が可能となっており、現在は事業継続計画の作成と周知を課題としています。備蓄は一週間分を備え、防災担当職員が責任者となって管理しています。	事業継続計画作成後の周知、運用、見直しが計画的におこなわれることを期待いたします。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を把握してその人にあつた対応ができるように努めている。個人情報情報は外部の方の目につかないように保管している。	不適切ケアに係る研修では「本人の訴えに対して否定して答える」「机などをたたいて何か訴えていることを後回しにする」といった職員の行為が及ぼす影響を考え、「話を合わせ、安心できる返答」「早めの対応と丁寧な受け答え」が穏やかな日常につながることを学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の性格を理解して表出されにくい希望に気が付くように努め、自己決定納得のできる生活が送れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりや都合を優先することなくやりたいことや好きなことをご本人のペースで行い生活が送れるよう支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな洋服を選んできたり美容では好の髪形にして、希望の方にはメイクができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月一回イベント食、利用者様の食べたいものを聞き、メニューに取り入れている。配膳、下膳などは、出来る方が行って頂いている。メニュー表を見える場所に貼っている。	食事は調理専任職員が提供し、利用者の好みやリクエストを反映しています。定番人気はちらし寿司や握り寿司ですが、久しぶりに出た稲荷寿司が喜ばれた日もあります。「長沼農園」で穫れたじゃが芋のフライドポテトや胡桃柚餅子、紫蘇ジュース作りなどおやつレクも盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はその都度記録し栄養摂取の確認をし水分摂取は毎食事、10時15時の水分摂取も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回の口腔ケアを実施してその方の口腔状態に合わせてブラシ、スポンジ、ガーゼなどで対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンやサインを把握し声掛け誘導を行っている。またおむつの使用を減らすよう心掛けトイレでの排泄を促すようにしている。	尿意の有無に関わらずトイレの訴えが多い人には、汚染がないことを確認後、外気に触れ、体操に参加して日中の活動量を増やし、夜間しっかり睡眠がとれるよう生活リズムを見直した結果改善した例があります。便秘対策にはまず定期的なトイレに座ることを習慣付けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は、往診時に医師に相談を行い運動量の少ない方は、働きかけを行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日時間はある程度決まっているが決まった中でもご本人の希望やタイミングに合わせることができる。場合により足浴や陰洗など行っている。	毎日入りたい人は現在おらず、週2回を目安として主に午前中に入浴としています。複数の入浴剤や季節の変わり湯も用意していますが、拒否があつて汚染した衣類の交換もままならない場合があり、どのような対応が適切か職員間で意見を出し合つて検討しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し訴え時や観察などから自由に安心して休息ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が分かるように一人一人の薬の説明書をファイルにまとめ確認できるようにしている。薬剤師にも連絡できる体制もとれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることを見つけ出し日常生活の中で役割を持って生活をしていただいている。行いたいことや趣味活動の訴えなど傾聴するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	面会緩和に伴い、家人と共に結婚披露宴やお墓参りなどに出かけている。公園までの散歩。イベント事への外出は、その都度家人と話し合っている。	散歩は職員の配置や天候をみながら近くの公園まで足を伸ばし、ベンチでひと休みして気分転換を図っています。真富士の里や用宗海岸、久能街道へのドライブをはじめ、桜や紅葉のシーズンには全員が出かけられるよう、何日かに渡つて計画を立てています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は預かっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などの電話や手紙のやり取りができるように支援している。また困難者にはスタッフが間に入りやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る季節ごとの壁画を一緒に作り四季を共有スペースに取り入れている。不快な音や光などはカーテンの使用やテレビの音量など配慮している。同じ場所に座る事なくソファセットなど、くつろげる空間を取り入れている。	毎日の清掃と1時間に一度の換気、加湿器に薬剤を入れ、空気清浄機の設置など入念な感染予防対策をおこなっています。利用者と一緒に制作する折り紙のハイビスカスやコスモスが壁面を彩り、作品と一緒に撮影した写真はすぐにSNSで家族に発信しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファなどを置き入居者様同士がくつろげたりまたリラックスできる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、新しいものの使用ではなく自宅にて使用されていたなじみのあるものをもってきてもらうようにしている。居室内はご家族と入居者様でレイアウトしていただいている。	日がな一日テレビをつけ、自分一人の時間を大事にしている人や、手紙を書いたりタンスの整理をしたりと思い思いに過ごせる居室です。歩行が不安定な人には、手の届く範囲に家具を配置して伝いながら歩けるよう配慮し、安全面からも工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりを設置し移動も確保したり居室内では身体機能に合わせてご本人とともに家具の配置を行うなどして。確認と安全を合わせ自立した生活が送れるように工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274201686		
法人名	有限会社ライフレビュー		
事業所名	まつもとデイ・グループホーム長沼 ユニット②		
所在地	静岡県静岡市葵区長沼2-11-20		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2274201686-00&amp;serviceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2274201686-00&amp;serviceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年10月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎日、午前中に入居者様と職員でラジオ体操を継続して行っています。コロナで外出が出来ないため、施設人気であるまつもと喫茶の回数を増やしたり、外食が出来ないため入居者様のリクエストを聞き、寿司パーティを行ったりと、施設内でのレクリエーションに力を入れている。体調の変化などは、協力機関と密に連携を取り、重症化を防いでいる。空いた時間で卓上ゲームを行い盛り上がっています。新しく始めた長沼農園では、しその葉の収穫ができました。季節のものを作ったり室内で出来ることを増やして気分転換を図るように心がけています。□

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

掲載された写真で活動の様子や表情が鮮明な「まつもとグループホーム新聞」と、健康面や食事面を手紙に添えて毎月家族に届け、さらに昨年度からは9割以上の家族とSNSでつながり、タイムリーな情報発信に事業所での生活が手に取るようにわかると喜ばれています。「その人らしさ」を起点にしたケアが暮らしの安寧となって日々を支える中、コロナ禍で滞っていた地域交流が再開し、長沼公園祭りの賑わいで活力を高め、制限が緩和された面会には「家族と少しでも外の空気が吸えて嬉しい」といった声も聞かれ、閉塞感に包まれた三年間を振り切るようにウィズコロナを歩み出しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本などの活用で昔使っていたなじみ深い風景や家庭用品等の物を見たり、昔の懐かしい音楽を聞いたりしながら、利用者様と語り合う時間を使っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内祭りの参加。近くの公園などの草むしり等を行っている。コロナの関係で学校からの行事は中止となっている。		
		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの関係でおこなっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を行い、サービスの実際を報告している。また、意見を聞き、サービス向上に努めている。グループホームのネットワークの参加。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携を密にとり、現状の報告や、運営の助言を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、昼夜問わずオートロックとなっているが、各階の入り口は施錠せず入居者様の行動制限をすることは一切行わないように努めている。研修記録を書面で残している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での高齢者虐待防止研修を行っているほか、カンファレンスでの話し合いを行い、虐待を見過ごさないようにしている。入浴時に全身状態の観察も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、個々での必要性を話し合い活用する場合は支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、自宅に訪問するか、施設に来訪していただきご本人ご家族と面談したうえで十分な説明を行い、理解納得していただけるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員、経営者が直接話を聞いている。申し送りなどで情報を共有している。また、個別報告を記入し、毎月、ご家族にわかるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行う申し送りなど様々な問題について話し合っている。また、個別での意見交換も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1度、職員の努力や実績に応じた給与水準の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での定期的な研修を行う予定でいる。コロナの関係で未定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係でおこなっていない。グループホームネットワークづくりはリモートでの参加をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話聞く場を多く持ち、不安や希望を傾聴し受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コミュニケーションが取れる機会を多く持ち、不安や希望を傾聴し受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話傾聴し、何が必要かを考え、こちらの提供が困難な場合は、対策を考え助言するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とともに会話を楽しんだり、一つの作業を一緒に行ったりと、互いの感情が表出出来るような雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と会話をする時間を大切にし家族の思いを受け止め協力し合って本人を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙、電話などで関係が途切れないようにしている。また、面会の緩和により、馴染みの方に会う事も出来ている。家人との馴染みの場所へも出掛けたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室や食席に配慮して、入居者様同士の関わり合いを大切にしている。また、共通の趣味など楽しい時間を過ごしてもらおうほか一人ひとり役割を持っていただくことで入居者様同士の関係づくりに役立てる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても気軽に立ち寄っていただいたり相談等あった場合には、できる限り受付できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や趣味等を把握し入居者様とのコミュニケーション、日常生活の中で言動などから入居者様の意向を把握するようにしている。困難な場合は本人本位に穏やかに生活できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族関係を把握し、入居後も以前と変わらない生活が続けられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画の経過記録及び評価時のカンファレンスや毎日の申し送りで職員全体が入居者様一人一人の情報を共有して現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日行つ申し送りで、気が付いた点などを話し合う他、言っていた言葉や心配事など、職員間で話し合い、計画書へ反映させている。変化があれば家族に報告し、全スタッフ間で情報を共有し計画に反映している。申し送りノートを作成し全職員が目を通し計画に携わっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは、個別の看、介護記録に記入して情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況を一つのサービスに限定せず、その時々合ったサービスを多方面から考え柔軟な支援サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの関係でおこなっていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の施設内での往診のほかご本人ご家族の希望されている入居前のかかりつけ医の受診がスムーズにできるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中で気が付いた点や状態などを看護職員に伝え入居様が早急に適切な受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様、ご家族の要望を聞きながら医療機関と密に連絡を取り早期退院し元の生活に戻れるように情報交換相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から入居者様ご家族と話し合い意向の確認をしている。ご本人の状態を見ながらその都度話し合いの場を設けている。必要に応じ、往診の立ち合いや主治医からの病状の説明も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや行うべきことを明確にし目の届く場所に掲示していつでも確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での災害対策は避難場所・避難経路ともに全職員が身に着けるよう定期的に確認を行っている。定期的な避難訓練を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を把握してその人にあつた対応ができるように努めている。個人情報情報は外部の方の目につかないように保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の性格を理解して表出されにくい希望に気が付くように努め、自己決定納得のできる生活が送れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりや都合を優先することなくやりたいことや好きなことをご本人のペースで行い生活が送れるよう支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな洋服を選んできたり美容では好の髪形にして、希望の方にはメイクができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月一回イベント食、利用者様の食べたいものを聞き、メニューに取り入れている。配膳、下膳などは、出来る方が行って頂いている。メニュー表を見える場所に貼っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はその都度記録し栄養摂取の確認をし水分摂取は毎食事、10時15時の水分摂取も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回の口腔ケアを実施してその方の口腔状態に合わせてブラシ、スポンジ、ガーゼなどで対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンやサインを把握し声掛け誘導を行っている。またおむつの使用を減らすよう心掛けトイレでの排泄を促すようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は、往診時に医師に相談を行い運動量の少ない方は、働きかけを行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日時間はある程度決まっているが決まった中でもご本人の希望やタイミングに合わせることができる。場合により足浴や陰洗など行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し訴え時や観察などから自由に安心して休息ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が分かるように一人一人の薬の説明書をファイルにまとめ確認できるようにしている。薬剤師にも連絡できる体制もとれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることを見つけ出し日常生活の中で役割を持って生活をしていただいている。行いたいことや趣味活動の訴えなど傾聴するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会緩和に伴い、家人と共に結婚披露宴やお墓参りなどに出かけている。公園までの散歩。イベント事への外出は、その都度家人と話し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は預かっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などの電話や手紙のやり取りができるように支援している。また困難者にはスタッフが間に入りやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る季節ごとの壁画を一緒に作り四季を共有スペースに取り入れている。不快な音や光などはカーテンの使用やテレビの音量など配慮している。同じ場所に座る事なくソファセットなど、くつろげる空間を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファなどを置き入居者様同士がくつろげたりまたリラックスできる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、新しいものの使用ではなく自宅にて使用されていたなじみのあるものをもってきてもらうようにしている。居室内はご家族と入居者様でレイアウトしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりを設置し移動も確保したり居室内では身体機能に合わせてご本人とともに家具の配置を行うなどして。確認と安全を合わせ自立した生活が送れるように工夫している。		